

会 議 記 録

次のとおり会議記録を作成します。

会 議 名	令和6年度高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	令和7年1月29日（水） 14時00分 ～ 15時30分
開 催 場 所	高松市役所本庁舎11階 110会議室議室
議 題	1 高松市地球温暖化対策実行計画の進行管理指標の見直しについて 2 エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの見直し等について 3 高松市地球温暖化対策実行計画の令和5年度の実行状況について 4 エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの令和5年度の実行状況について 5 その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	16人 白木会長、末永副会長、赤崎委員、安部委員、生嶋委員、池田委員、石川委員、木村 士郎委員、木村 友香委員、杉ノ内委員、鈴木委員、高畑委員、中尾委員、西村委員、広瀬委員、山本委員
欠 席 委 員	2人
傍 聴 者	2人
担 当 課 及 連 絡 先	ゼロカーボンシティ推進課 (TEL087-839-2393)

協議の経過
協議会を開会し、次の議題について協議した。 1) 高松市地球温暖化対策実行計画の進行管理指標の見直しについて (委員) 資料1-(1)8頁、国の「地球温暖化対策計画」見直しに伴う、高松市の計画の見直しスケジュールについて教えていただきたい。 (事務局) 国のスケジュールが未定であるため、本市のスケジュールも未定の段階。来年度、国の見直しに伴う県の対応等との整合性を図りながら見直すこととなるものと考えている。 (会長) 資料1-(1)4頁～8頁、「進行管理指標の見直し」について、目標値を高く掲げられる内容と、伸び悩む内容があるが、事務局はどのように考えているか。

協議の経過

(事務局)

市民や企業の脱炭素化に対する意識の高まりを感じており、それに伴い様々な取組も加速している状況にあることから、それらを目標値の設定に反映させていきたいと考えている。

また、苦戦している部分については、目標達成ができるような各種施策に取り組んでまいりたい。

(会長)

資料1-(1)1頁、「高松市全体の温室効果ガス排出量削減目標 2030年度目標 46%削減(対2013年度比)」に向けて、努力をして効果が上がる部分と、効果が出にくい部分があるかと思うので、その辺りを戦略的に行わなければいけない。

2) エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの見直し等について

(委員)

資料2-(1)12頁、「上水道使用量の削減」については、基準年度に比べて現況値が、かなり下がっている理由を教えてください。

(事務局)

補足資料として資料4の8頁を参照いただきたい。上水道の使用量については、2020年度に0.73まで下がっており、これは新型コロナウイルスによる事業活動の縮小が理由として考えられる。

(委員)

資料2-(1)12頁、「電力使用量の削減」について、目標値が現況値より増えているのはなぜか。

(事務局)

補足資料として資料4の5頁を参照いただきたい。「電気使用量」において、既に目標を達成しているため、目標値が現況値より高くなっている。

電力使用量を更に減少させる取組や、目標設定の見直しも検討してまいりたい。

(会長)

現在、太陽光等、自然エネルギーを使用するようになっている。その影響が、どの程度あるのかということは、今後戦略的に目標を設定する上で、分析しておく必要があるので、事務局には分析をお願いしたい。

(委員)

資料2-(1)11頁、「LED照明の導入」及び「電動車の導入」の2030年度目標が、100%に設定されている。これらは、達成される見込みがあるのか。

協議の経過

(事務局)

まず、「LED照明の導入」について。

市の所有する建替え計画中の一部施設は、建替え後にLED照明にする。そのため、それらの施設は除いて、100%を目指している。今後、蛍光灯の製造や輸出入が廃止されることから、早い段階でLED照明の導入を完了させたい。

次に、「電動車の導入」について。

100%を目指してはいるが、充電設備や予算の面で課題がある。目標は高いが、可能な限り、その達成に向けて取り組んでまいりたい。

(委員)

市民には、充電設備や予算といった条件が、この資料からだけでは分からないため、数字だけを見て、現況値4.6%に対して目標値が100%という点に疑問を感じるかもしれない。

(副会長)

電動車導入の具体的な状況を教えていただきたい。

(事務局)

現在、公用車が約400台ある。そのうち、電気動車の数は、購入が約300台のうち9台、リースが90台のうち7台であり、合計16台となっている。

現在、20年以上経過している車両もあることから、今後更新の際に、電動車にしてまいりたい。

また、公用車のカーシェアの話があり、これは、平日は公用車で、休日に市民が利用するというもの。今後、公用車の適正化ということで、公用車の所有数つまり分母が下がるという可能性もあるため、電動車の導入率が上がるものとする。

(委員)

関連するところで、先程事務局からの説明で、LEDの進捗状況と今後の展開について、今後2年間で82%を達成する予定とのことだったので、予算措置さえできれば、2030年度までに達成することも可能だと考えられる。

また、電力使用量の削減についても、全体の電力使用量のうち、照明が何割を占めるのかを示すことで今後分析しやすくなる。

(委員)

資料2-(1)9頁、プラスチックごみの排出の抑制について。

高松まつり等のイベントにおいて、使い捨て容器の代わりに、リユース食器の利用を提案したい。NPO法人で無料の貸出も行っているのので、検討、活用していただきたい。

(委員)

それに関連して、祭りにおけるごみについて問題意識がある。祭り会場でのごみの分別

協議の経過

が、地域によってはできていないため、会場での分別を徹底するようにしていただきたい。

(事務局)

市の主催するイベントにおいて、積極的に行ってまいりたい。

3) 高松市地球温暖化対策実行計画の令和5年度の取組状況について

(委員)

資料3の8頁、産業部門からの排出量が基準年度の2013年度から2017年度にかけて大幅に減少している理由について教えていただきたい。

(副会長)

その件については、製造業における排出量の削減に向けた取組が貢献していると考えられる。

例えば、低炭素コンクリートを1立米作るのに、通常の3～4割削減できる。2013年度から2017年度の4年間で、徐々にそういった工夫が功を奏しているのではないか。

また、カーボンクレジットの制度が導入されてきているので、製造業は対策を急いでいると考えられる。

(委員)

資料3の7頁にあるグラフ「部門別CO2排出量構成比」を見ると、日本全体と高松市の部門別CO2排出量構成比の割合の違いがよく分かるのだが、その特徴を踏まえて、今後、高松市において重点的に取り組むことはあるのか。

(事務局)

当課としては、主に今までは家庭部門を対象とした事業を中心に行ってきた。今後、本市において割合の高い運輸部門などに対する事業にも取り組んでまいりたい。

(委員)

資料3の12頁「地球温暖化対策実行計画進行管理指標(20項目)の令和5年度進捗状況」の一番下にある「循環型社会の形成」の中で、「1人1日当たりのごみ排出量」は、評価がAであるのに対して、「1人1日当たりのごみ資源化量」は、評価がEということで、「ごみ資源化量」という概念がよく分からないため、教えていただきたい。

(事務局)

ごみ自体の量が減ると資源化もできないということで、評価が低くなっており、こちらについては、管理指標の見直しが必要ということで、資料1-(1)7頁、「4) 進行管理指標の見直し」において、「①[1人1日当たりのごみ資源化量] 環境基本計画での指標の削除に伴い削除」としている。

「ごみの資源化量」の資源ごみは、紙ごみや、布類、かん、びん、ペットボトルがあり、

協議の経過

それらの資源化の量を集計している。その中で、最近はデジタル化ということで、紙の量が減ってきている。紙は重いので、紙ごみが減ると、資源化するごみも減ることになる。

紙ごみが減ることは決して悪いことではないが、資源化量が減るという状況にあり、それが必ずしも悪いというわけではない。

4) エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの令和5年度の実施状況について

(副会長)

資料4の7頁「用紙類使用量」において、2022年度から2023年度にかけて、これだけの削減ができた理由を教えてください。

(事務局)

例えば、今回の会議においても事務局は紙ではなくPCを使用しており、そういった会議等でのPC活用を全庁的に行っている。

(副会長)

逆に2022年度だけ紙の使用量が増えた理由は何か。

(事務局)

コロナ禍が終わり、事業が再開し始めた時期ということが考えられる。

5) その他（意見等）

(委員)

今後、脱炭素化に向けて高松市も様々な施策を行い、それに伴い、市の予算つまり税金がかなり必要になると考えられるが、市にはリースなどを活用し、予算を抑えながら着実に取り組んでいただきたい。

(委員)

この会議における委員の資料が紙で配布されているため、今後可能であれば、事務局が資料をデータで提供し、委員が各自PCやタブレットを持参して閲覧することを提案する。

(事務局)

市の審議会において資料を紙ではなく、PC等を使用してデータで閲覧することは昨年度から実験的に実施しており、今後の会議にあたっては、紙の削減は当然のこととして、積極的に行ってまいりたい。

また、本日の協議会を通して、委員の皆様には高松市の取組を御理解いただけたかと思うが、市民の方々は、まだ活動内容を御存知ない方が大半だと思われるため、広く周知できるような案や御意見があれば、また教えてください。

協議の経過

(会長)

委員の皆様には、ぜひ広報活動を市民に向けて行っていただきたい。

(委員)

市民の脱炭素化に向けた意識の高まりについての理由を、教えていただきたい。

(事務局)

社会全体の流れとして脱炭素化が生活の中に入ってきていると考えられる。例えば、LED照明や、エアコン等の家電製品など、民間企業が省エネや脱炭素につながる製品を製造していること等も影響しているものと考えられる。市においても啓発活動は行っているが、社会全体の風潮が大きいように感じる。

(委員)

所属する団体でも、脱炭素化の観点から、ペットボトルのお茶を出さないようにする等取組を行っており、脱炭素化の動きが少しずつ高まってきていることを感じる。

(会長)

これまでの通り着実に脱炭素化を進めるとともに、より一層、CO₂を削減できるように、今後も意見を出し合いながら、脱炭素化を進めてまいりたい。

それでは本日の会議はこれをもって終了する。